

## 高齢者対象に交安教室

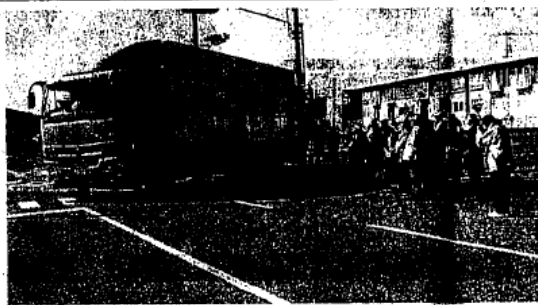
### 秋ト協 死角体験・巻き込み実演

【秋田】秋田県トラック協会（赤上信弥会長）は10月27日、秋田市内の自動車教習所で初の「体験型シルバー交通安全教室」を開催した。社会貢献事業の一環として高齢者を対象にした交安教室で、大型トラックを使っての死角体験や左折巻き込みの実演などを行い、交通事故防止を呼び掛けた。

秋田市の秋田南自動車学校で開催。秋田地区交通安全協会から、対象となる会員ら約20人が受講した。開会式は同校の教室で行われ、赤上会長が「社会問題として高齢者の交通事故が多発傾向にあることから今回、初の交安教室を開催する。私も67歳、体の衰えを感じる。大事なことは、性格も含めて自分の身体的な状況、特徴を理解して行動

しないと交通事故につながる。今日は大型トラックを見ていただき、交通安全に生かして欲しい」とあいさつ。

秋田中央警察署交通課の平野井貴樹交通企画係長が、交通安全ビデオを上映しながら交通安全講話を



左折時の巻き込み模擬実演

行った。

場所を教習コースに移し、大型トラック1台と乗用車を使った体験型の交安教室を実施。受講者が運転席に座り、大型車に「死角」があることを知ってもらうとともに、その死角ゾーンにテープを張り、秋ト協の担当者が危険性や注意点を説明した。

また、自転車に乗ったタミー人形を使って、左折時の巻き込みによる模擬事故を再現。大型車を走行させ、左折する交差点での二輪車による並走や信号待ちでの事故事例などを紹介し、危険回避の行動などを教えた。このほか、乗用車を使った急ブレーキによる停止距離測定なども行われた。

受講した秋田地区安協の菅原満里子副会長は「大型車を使った体験型の安全教室は初めて。トラックをこんなに近くで見ることがない。大変参考になった」と話している。（黒田秀男）